

---

# 三題嘶

桜花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三題廻

### 【Zコード】

Z08060

### 【作者名】

桜花

### 【あらすじ】

読書が大好きな主人公の僕と、お菓子作りが大好きな妹のある日。

\* 青い \* 夕陽 \* 今川焼き

\* 青い

\* 夕陽

\* 今川焼き

放課後、忘れ物を取りに戻つた教室は、窓から優しく夕陽が射し込み、時折風がカーテンを揺らす。誰も居ない教室はいつもより広く感じられた。それでもとても心地いい空間だと思った。

僕はロッカーから教科書を取り、それから夕陽に誘われるかのように窓側の席に座つた。そして先ほど図書室で借りてきた青いハードカバーの本を開いた。

夢中になつてページをめくつていく。気がつけば外は夕陽が沈んで、暗くなり始めていた。僕は鞄の中に本をしまつて帰宅した。

「ただいま」

「おかえりお兄ちゃん」

家に着くと、顔や手が粉まみれになつている妹が出迎えてくれた。

「あや、今日は何を作ってくれたの？」

靴を脱ぎ、そのままリビングの方へ向かう。すり甘に香りがする。

「今日はねーあやがどうしても食べたかった”今川焼き”をつくつたんだよ」

と言つと、かわいくラッピングされた今川焼きを差し出した。誰かにあげるつもりだったのだろうか？

「中身は小豆とクリームの2種類だよー今渡した青いラッピングのが小豆で、ピンクのラッピングの方はクリームなんだーー」

「ありがとう、あや」

僕は丁寧にラッピングされた今川焼きを一口食べた。まだ焼きたてだった今川焼きはとても温かくて、口の中に広がる小豆の甘さが鼻孔をくすぐる。

「おいしそう。一人でつべつたの?すごいね」

「うんっー。」

僕は残りの分を食べる。その様子をあやは、じつと見つめた。

「おこしかったよ。また作つてね」

「次はもつとおこしいの作るねー」

「楽しみだな

夕飯できたら呼びに行くねっ!とあやは言い、僕は自分の部屋に向かつた。鞄から借りてきた本を取り出して、ベッドの上で続きを読み始めた。この話の続きどうなるのだろうか?  
僕はまた本に夢中になるのだった……。

fin\*。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0806o/>

---

三題嘸

2011年10月7日22時05分発行